

難波田城だより

2018 春

75号

編集・発行

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース— NEWS from NANBATAJO

富士見市立難波田城資料館

平成30年3月1日発行

難波田氏と似た者同士の藤田氏

市民学芸員 世羅 陽一郎



花園城跡(寄居町)遠景

その城跡は荒川を挟んだ鉢形城跡の本丸からもよく見える。

なだらかな山容ではあるが、さて攻めようとなるいくつかの^{たてぼり}堅堀、堀切と^{こしぐるわ}腰郭(斜面に作られる小さな削平地)の多用、横矢掛(敵兵を側面から攻撃するための曲輪のつくり)も施されているという。仰ぐ山城に栄枯盛衰の風の音を感じた。

花園城主であった藤田氏は、児玉郡美里に勢力のあった猪俣政行が藤田郷に入り藤田姓を名乗ったことに端を発する。戦国期には、平地にある藤田氏館から花園城へ拠点に移したという。各地の守護や中小の国人が小城下を作り民衆を巻き込んでいくのである。十五代藤田康邦の時に、北条氏の台頭に応じて、氏康の三男^{うじくに}氏邦を養子に迎える。そして鉢形城が大改修され、北条氏邦が入城した。その結果、花園城は支城となった。

花園城は^{ひがしぐるわ}東郭、三の郭、二の郭、本郭からなる連郭式(郭を並列に並べた構造)の標高200mの山城である。

まず、国道140号に近い諏訪神社の裏から登城することにした。比高100mの山城を甘く見

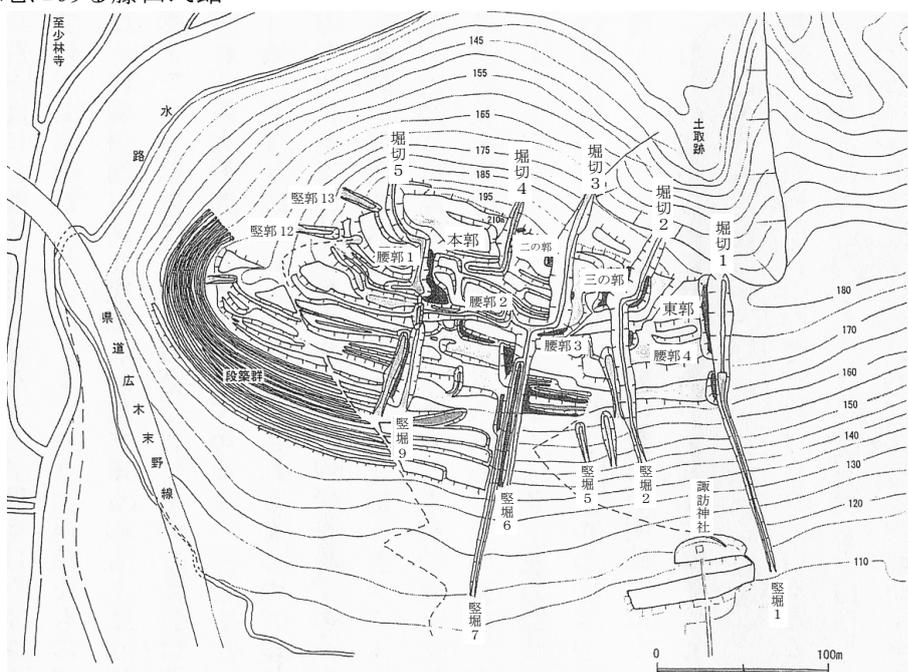
ていた。複雑な^{なわぼり}縄張と整備してない山道と寺の住職の忠告(猪が頻発している)が気になっていた。二の郭から^{ふもと}麓まで垂直の堅堀は大きく、幅15mもあるだろうか。藪の為、本郭まで40分程かかった。本郭は2段で東西60m、南北15mの規模である。

この城の特徴は、四つの郭と五つの鍵形の堀切、腰郭の多用、自山の変成岩を平積みした石垣である。半分以上遺跡調査がされておらず、整備も不備だが、埼玉県選定重要遺跡に選ばれており、後世に残したい古城である。

難波田氏は武蔵七党の村山党に属する。一方、藤田氏は先に述べたとおり猪俣党二十余氏の一族である。両氏は天文15年(1546)の河越夜戦に参戦し、また、天正18年(1590)の小田原の役に伴う松山城攻防戦では、難波田憲次は北条方で、藤田藤吉は豊臣方に降伏して反北条方で参戦している。

まずは、身近な武蔵七党のゆかりの地をめぐることで彩の国の歴史の深さと謎を知ろうではありませんか。

ぼつぼつと^{さんがつじん}三月尽の腰郭



花園城全体図(出典：関東の名城を歩く南関東編)

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

城跡シリーズ③ 『堀と土塁』

堀と土塁は、平城であれ山城であれ、城郭の防御施設として基本的な構成要素です。

難波田城はいうまでもなく、難波田氏が構えた居館が起源とされる平城です。三重の水堀がある見事な縄張(設計)となっています。

発掘調査報告書によれば、本城を取巻く内堀は素掘りで幅15mから20m・深さ1.5m、底は砂層で湧水が多く水堀になっていたことが確認されています。

土塁については、廃城後に宅地や耕地に削平されていて詳細は分かりませんが、古絵図等を参考にして復元しています。

復元前の航空写真(図1)と現状を比較すると、現在の城跡の景観の復元に携わった多くの関係者・市民の努力を感じます。

現在では本城の規模などを見定める術はありませんが、堀越しに映る資料館の影に在りし日の難波田城の姿へ思いを馳せるのも見どころの一つかもしれません。(西尾勉)

(参考文献)『富士見文化財報告書第50集難波田城跡』『難波田城のすべて』



図1 難波田城跡空撮(平成6年)



図2 難波田城縄張推定図(公園リーフレット第2版)

おもしろ・なつかし体験⑤7

小学生の社会科見学
昔のくらし体験

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

富士見市内の小学校3年生は、校外学習の一環として、難波田城公園でおよそ80年前の暮らしの体験をしています。

学校から徒歩やバスで来館します。到着後、ガスも電気も水道も無かった暮らしの説明を聞きながら、まもなく始まる体験に気持ちは高揚していきます。

体験のひとつに農作業があります。稲の収穫直後は脱穀体験を、その他の時季は稲わらによる縄ない体験を旧金子家住宅の庭で行います。

始めは馴れない手つきですが、コツを覚えるとかわい绳が次々と完成し、持参した袋に詰め、記念品として持ち帰ります。

他に、はたおり、石臼ひき、昔の灯り体験と盛りだくさんの体験をしていきます。それぞれをクリアしていくところに、3年生が4月からの1年でたくましく成長していると感じます。その成長の早さには驚くばかりです。

(野村 富雄)



やってみせ、



手取り教える。

人の創ったもの★人の使ったもの

めんし たかくらさこん 面師三代・高倉左近のお面

企画展『里神楽と面師』3/10～6/10

初代作の狐面との出会い

まもなく始まる企画展では、市内水子地区で三代にわたり、神楽や囃子の面を専業で作っている「めんこや」の高倉左近家を紹介します。

私が初めて高倉左近さんのお面を見たのは平成 19 年(2007)3月初午、東大久保地区の関場稲荷社でした。稲作農家が多い当市では稲荷講が盛んで、今でも行事を続けている講社が少なくありません。当時、昔ながらのノボリ立てをおこなう初午祭をビデオに収めました。祠の中には狐の木彫り面。これが初代高倉左近の面でした。

裏書きからは次のことがわかりました。①高倉左近が昭和 22 年(1947)に製作 ②23 年(1948)に氏子の子どもが「仲間入り」をする際に奉納した ③値段は 590 円だった。また、同講社の方々から、当時は子ども達が稲荷様の近くに自分たちで造った小屋に一晩泊まり、五目ご飯やお汁粉などを作って食べ、太鼓をたたいたりして遊んだことを聞きました。これを「お籠もり」と呼んだそうです。狐の面を付けて舞いながら近隣の家を訪ね、色紙で作った花と引き換えに油代をもらったりもしました。これを「舞い込み」と呼びました。

この面は、お借りして平成 20 年春季企画展「草屋根の年中行事」で展示した後、ご寄贈いただきました。今回の企画展でも展示します。

初代 (1901-1985)

本名は高野倉吉さん。明治 34 年(1901)に水谷村に生まれました。もともと手先が器用で、趣味で神楽面作りをしていた近所の人から木彫りの技を教わったそうです。戦後、昭和 21 年(1946)頃から「高倉左近」として本格的に木彫りと張り子の神楽面作りを始めました。号は、氏名から一字ずつ採った「高倉」に、江戸時代の建築彫刻の名人・左甚五郎に少しでも近づきたいとの思いを込めて「左近」を付けました。昭和 30 年(1955)頃、長男である二代目が面作りに専念し始めると同時に第一線を退きます。三代目は「初代は革新的な人だった」と言います。

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



初代高倉左近作の木彫り面「狐」



二代目作の木彫り面
「おかめ」/高倉左近蔵



三代目作の張り子面
「ひよっこ」/高倉左近蔵

二代目 (1934-)

本名は高野貞吉さん。昭和 9 年(1934)に誕生。中学を卒業した後、会社に勤めて数年経った頃、父親の面作りを手伝うようになりました。ちょうどその頃は戦争の影響で中断されていた神楽が各地で復活してきた時期だったので、面の注文が多く入りました。初代の技を見よう見まねで覚えました。30 年(1955)頃には会社を辞め、面作りに専念。木彫り面でも張り子面でも完成度の高い神楽面作りを追求しました。囃子で使われる、「おかめ、ひよっこ、狐」の面を彫ることが多く、働き盛りの頃にはオカメなら 1 日に 3 枚、狐なら 1 枚、彫ったそうです。

62 歳のときの取材で「何十年やってもこれで良いということはない。一生勉強ですね」と話し、70 歳過ぎまで面作りを続けました。

三代目 (1964-)

本名は高野亨さん。昭和 39 年(1964)、二代目の長男として誕生。工業高校卒業後、家業を手伝い始めました。見よう見まねで仕事を覚え、現在は張り子面製作と木彫り面の修理を受注しています。代々受け継がれた製作方法や材料に疑問を感じたときには、特性等を調べ、研究し、時代の求めに応じた、より良いものに替えています。(駒木敦子)

＊ ＊春のイベント予定＊ ＊

●企画展情報

春季企画展「里神楽と面師」

市内の神社に奉納される里神楽と、市内で神楽や囃子の面を製作する面師を紹介します。

会期／3月10日(土)～6月10日(日)

会場／特別展示室 入場無料

関連イベント

講演「里神楽の楽しみ方」

とき／3月11日(日) 午後1時30分～3時

定員／30人(申込順) 参加費／無料

会場／講座室

講師／齊藤修平氏(文教大学客員研究員)

「里神楽演舞」

とき／3月17日(土)①午前11時～正午②午後2時～3時

定員／各回50人(当日先着順) 参加費／無料

会場／旧大澤家住宅

出演／齊藤社中

企画展示解説

とき／4月21日(土) 午後1時～2時

会場／特別展示室

ちょこっと体験「お面をつけてみよう」

とき／5月13日(日) 午後1時～3時※体験は数分間

会場／講座室

●ちょこっと体験「昔の着物を着てみよう」

野良着や羽織などを着て、ちょっと昔の気分を味わってみませんか。子ども用も大人用もあります。

とき／3月24日(土)・25日(日) 午後1時～3時

※2時30分受付終了

場所／講座室

申込み／直接ご来場ください

※順番待ちをしていただく場合もあります。

協力／和道文化着装協会



●なつかしの自転車紙芝居

とき／4月29日(日)

①午前11時～②午後1時～③午後2時～

場所／旧金子家住宅 協力／わんだ一民話らんど

●よろいを着てみよう

とき／5月5日(土)

①午前10時～正午 ②午後1時～3時

定員／午前・午後各20人(無料、先着順)

対象／幼児(5歳以上)～大人

場所／旧金子家住宅

協力／川越藩火縄銃鉄砲隊保存会

●ちょこっと体験「ごえもん風呂」

古民家にあるごえもん風呂(菖蒲湯)に入る体験です。

とき／5月4日(祝) 午後1時～3時

場所／旧大澤家住宅

※水着とタオルをお持ち下さい。

◆難波田城公園まつり

6月3日(日)に開催する予定です。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

難波田城公園活用推進協議会主催事業

◆ちょっ蔵市

3月25日(日) 草もち

4月22日(日) かしわもち

5月はお休み

・田舎まんじゅう販売
第1、3日曜日 10:30～
・お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)
3月13日(火)、4月10日(火)
5月8日(火) 11:30～13:30

〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



なんばたじょう
難波田城
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

<http://www.city.fujimi.saitama.jp/30shisetsu/11nanbadajyo/index.html>

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト